

参考平治物語

三上

和書門	
三六三六二號	類
二二函	
二架	
六冊	

內閣文庫	
三六三六二號	和書
二二函	
二架	
六冊	

內閣文庫	
番號	和 36362
冊數	6 (5)
函號	167 38



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM Kodak



參考平治物語卷第三目錄

金玉丸從尾張馳上事

長田殺義朝馳參六波羅附梟義朝首事

忠致逃下尾州事

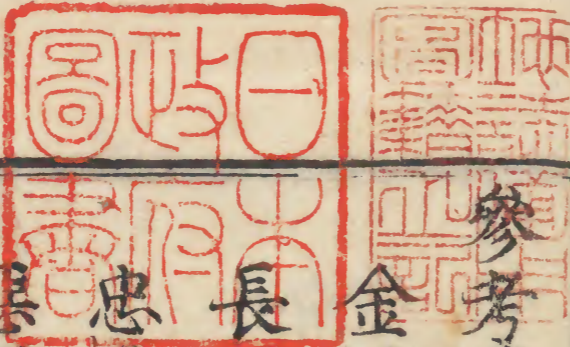
惡源太被誅事

清盛出家并瀧詣附惡源太為雷事

賴朝被生捕附常磐落事

賴朝被定遠流事除吳越戰事

常磐出六波羅事



經宗惟方遠流 并被召返事

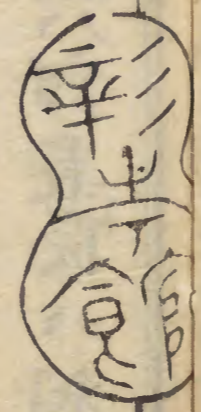
賴朝遠流 附盛安夢合事

牛若奥州下向事

賴朝舉義兵 并平家對治事

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

參考平治物語卷第三



常陽水戸府

魯齋今井弘濟將興甫 考訂
著軒内藤貞顯仲微甫 重校

金玉丸從尾張馳上事

氣色繫^子難クシテ喜フニモ易ク移リ歎クニモ
又留ラサレハ^子浅マシカリシ年モ暮平治二年ニ
成ニケリ正月一日新^子玉ノ年立返リタレトモ内
裏ニハ元日元三ノ儀式事^子カラズ天慶ノ例ト
テ朝拜モ止ラル^子
按天慶中廢朝廢務
實錄無明文未詳焉院モ仁和寺

ニ渡ラセ給へハ拜禮モナカリケリ以上京師錄倉半井本並
無以下京師杉原錄倉懸リシ處ニ正月五日イマ
半井本異別載于段尾夕朝ノ事ナルニ左馬頭ノ童金王丸常磐カ許ニ
來テ馬ヨリ飛テ下暫カ程ハ涙ニ沈良有テ此三
日曉尾張國野間ト申所ニテ長田四郎カ爲ニ討
レサセ給候ヌト申セハ聞モマヘス常磐ヲ始テ
幼キ人々聲々ニ悲給フソ哀ナル其後道スカラ
ノ事トモ委ク語申シニソ朝長ノ失給ヒ森六郎
ノ討レ給フヲモ聞給ヒケル陸奥六郎義隆ハ相

摸森ヲ知行セラレケレハ森冠者トモ申ケリ六

郎森冠者森舊誤共作常磐加様ノ事トモヲ聞テ

毛利今據系圖等改之サハカリノ軍ノ中ヨリモ汝ヲ以テ幼者トモノ

事ヲ心苦シケニ仰ラレシニ既ニ空シク成給ヒ

ヌソレニ附テモアノ君達ヲハ如何スヘキトテ

伏況ケレハ金玉モ泣々申ケルハワラハモ御供

仕テ如何モ成ヘク候シカトモ道スカラモ君達

ノ御事ノミ心苦シキ御事ニ仰候シカハ加様ノ

事モ誰カハ知也進ラスヘキト存テ甲斐ナキ命

生テ參侍ル也。御子息達モ皆散々ニ成給ヌ。鎌倉ノ御曹司モ兵衛佐殿モ。定テ敵ニコソ囚ハレ給フラメ。幼ハ猶憑ナシ。然レハ御菩提ヲハ誰カハ弔進ラスヘキナレハ。年來ノ御ナシニ某ナリトモ僧法師ニモ罷成ナキ御跡弔奉ラントテ臆テ走出ケルカ。或寺ニ入テ出家シ。諸國七道修行シテ。義朝ノ後世ヲ弔申ケルコソ有難ケレ

○京師本杉原本鎌倉本半井本並云。玄光ハ鷲ノ栖ニ留リ。金玉ハ都ヘ入。常磐カ宿所ニ至リ此

由ヲ申ケレハ。都ヲ落サセ給フトテ汝ヲ使ニテ。打寄見參スヘケレトモ。敵ハツク隙モナクテ落ルナリ。東國ヨリ人ヲ上セニスルソ。幼者トモ相具シテ其時下リ給ヘト宣シカハ御志ノ薄ケレハコソ打寄隙モナカラメ。下リタラシ時小先此事ヲコソ申サニスラメト思ヒツルニ。空シク成給ヒヌル悲シサヨトソ歎ケル。今若トテ七歳乙若トテ五歳。牛若トチ二歳ニナル公達オハシケリ。牛若殿ハ幼ケレハ是

非モシラス。七ツ五ツニナル幼キ人々。金玉カ
袂ニ取附タテ。父御前ハ何方ニオハシマスソ。我等
ヲ具シテ參レヤ。ト泣給ヘハ。金玉涙ヲ流シ
テ申ケルハ。是ハ急キタル御使ニテ候。明日ハ
御迎ニ參ヘシト兎角コシラヘ奉リ。暇申テ走
出。或山寺ニテモトユヒ切法師ニ成テ。諸國七
道修行シテ。義朝ノ御菩提ヲ弔奉ル。云々。

長田殺義朝。馳參六波羅。梟義朝首事。
附梟 杉原

崎本有餘本無

去程ニ同六日。一院仁和寺殿ヨリ出サセオハシ
マシタレトモ。三條殿ハ去年焼ヌ。御所ニ成ヘキ
所モナケレハ。八條堀河皇后宮。大夫顯長卿。
藤顯隆子。舊名。顯教。又名。賴教。宿所ヲ御所ニナシテ入セ給フ。
日尾張國住人長田四郎忠宗子息先生景宗上洛
前。左馬頭義朝并鎌田兵衛政家カ首ヲ持參シテ。
不次ノ賞ヲ蒙ルヘキ由望申ケリ。是ハ昔ノ平大
夫知頼カ末葉。
據系圖及諸實錄。知頼當作致頼。按高望王曾孫。良茂孫。良正子也。或高望王曾孫。良兼孫。公雅子。不一。凡自致頼至忠致。世系紛々。諸系圖甚有異。見于下。可并考。岡崎本論。

註于 賀茂次郎行房カ孫 行房諸系圖無 平三郎宗房 諸系圖作

賀茂次郎カ子孫ナリ。杉原本無孫字。岡崎本云。忠致郎致房カ子孫ナリ。八上總介高望王ヨリ八代後胤平大夫カ子ヨリ五代ノ末葉賀茂次郎カ子フカ孫平三郎ニキカ子カ子也。云々。凡忠致世系詳出 于左

○按忠宗諸系圖作忠致而世系紛々。或作致頼子公致。公致子致房。致房子行致。行致子致俊。致俊子忠致。或作致頼子致經。致經子公致。公致子致房。或無公致。以テ致房。直為致經子。致房子行致。行致子忠致。愚管鈔云。忠致大矢左衛門致經末孫云々。

義朝重代ノ家人トシテ鎌田兵衛カ舅ナリ。然レ

ハ平大夫判官兼行 此下岡崎本云。五位 出納ヤスミツ。云々。二條京極

ノ千手堂ニ行向テ。二人首ヲ請取テ即實檢セラ

ル。今日ハ重日トテ渡サレス。同九日平大夫兼行。

總判官信房 總疑宗 之訛 青侍義守忠目範守善府生朝

忠清府生季道。此等ヲ始テ檢非違使八人行向テ。

西洞院ヲ上リニ渡シ。左ノ獄門ノ樗木ニノ梟タ

リケル。如何ナル者カニタリケニ。左馬頭元ハ下

野守タリシカハ。一首ノ歌ヲ書附タリ。

下野ハキノカニヨソ成ニケレ。ヨシトモ見ヘヌアケツカサ哉
 ○愚管鈔載此歌云是ヲ見ル人カヤウノ歌ノ中
 二是程一文字モアタナラヌ歌コソナケレト
 訶リケリ。九條大相國伊通公ソカ、ル歌讀テ
 多ク落レ文ニ書ナトシケルトソ。時ノ人思ヒ
 ケル。云々、

或者此落書ヲ見テ申ケルハ昔將門カ首ヲ獄門
 ニ梟ラレタリケルヲ藤六左近名、輔相藤長良孫、越前權守弘經子
 ト云數奇ノ者カ見テ

將門ハ米カミヨリツ切レケル。タハラ藤太カ謀ニテ
 ト讀ムリケレハシイト笑ケルナリ。將門ハ桓武
 ノ御子葛原親王ヨリ五代上總介高望ノ孫良將
舊誤作義カ子ナリ。朱雀院御宇承平五年二月ニ
政令改之
 謀反ヲ起シ按將門記將門始起兵者在承平伯父
六年將門事既註于保元物語
 常陸大掾國香高望王子ヲ討テヨリ東國ヲ從ヘ。
良將カ兄
 下總國相馬郡ニ都ヲ建タテ平親王ト自稱セシカ六
 年ニ當リテ天慶三年二月藤原秀郷村雄ニ討レ
 シ。首四月ノ末ニ京著シ。五月三日ニ笑シソカシ。

義朝モ名將ナレハ此首モ笑ヤセニ。秀郷國香カ
 子貞盛ト俱ニ向テ攻シカトモ。城強クニテ落難
 カリケレハ。秀郷身ヲヤツシテ子ヲヒケルカ。將
 門容貌相似タル兵七人伴テ。更ニ主從ノ儀一
 間都テ辨ヘ難カリシニ。或時秀郷新米ヲ出シタ
 リケル時將門ヲ見知テ。終ニ是ヲ討ト云ヘリ。依
 テ角讀ナルヘシ。秀郷國香子云々至此。杉原本不
 載。按藤六左近作歌將門首咲及
 將門率七人等。
 實錄無所見。同十日按正月十日改元有テ永曆ト云。
 此兵亂ニ依テナリ。去年四月ニ保元ヲ改テ平治

定リシ。平氏繁昌シテ天下ヲ治ムヘキ年號カト
 申セシカ。果シテ源氏滅テ平家世ヲ取レリ。其時
 大宮左大臣伊通公ハ。此年號甘心セラレス。平治
 トハ山モナク河モナクシテ平地ヤ。高卑ナカラ
 ニカト笑給シカ。終ニ皇居ハ武士ノ住家ト成。主
 上ハ凡人ノ亭ニ宿ラセ給ヒケルコソ不思議ナ
 シ。人ノ口程怖シカリケル事ハナレ

忠致逃下尾州事

去程ニ永曆元年正月二十三日除目行ハレテ上。

京師錄倉半井三本不載唯云義朝正清カ首持長
子長田都へ上リケリ。平家神妙也トテ云々。

田四郎忠宗ハ壹岐守ニナリ。先生景宗ハ兵衛尉

ニ京師杉原錄倉半井四本依正ナサレケルヲ父

子共ニ嫌申ス。義朝政家ハ昔ノ將門純友ニモ劣

ヲ又勇士ナリ。就中東國ニ下著シ給ヒナハ古ノ

貞任宗任十二年支へタリシヨリハ。猶屬從兵多

カルヘシ。然ラハ由々敷御大事ナルヘキヲ。事故

ナク誅シトメニハ。拔群ノ戰功也。其上彼人々

ヲ討テ進ラセシ者ヲハ。不次ノ賞行ハルヘシトコ

ソ仰下サレシカ。セメテハ彼所帶ナレハ。播磨國

ヲモ賜リ。左馬頭ニモナサレシコソ面目ナラヌ。

然ラスハ本國ナレハ美濃尾張ヲ賜テコソ。勸賞

トモ存セメト申セハ。筑後守家貞哀キヤツヲ二

十ノ指ヲ二十日ニ截首ヲハ。鋸ニテ引切ニシ候

ハ、ヤ。相傳ノ主ト正シキ壻ヲ殺シテ。過分ノ望

申ス。餘リ惡ク覺候。後代ノ爲ニ承リ沙汰シ候ハ

ント申ケレハ。清盛誠ニ彼カ所行放逸也。我モカ

クコソ思ヘトモ。イマタ朝敵ノ餘黨モ多ク。義朝

カ子共アルニ。今彼ヲ罪科セハ自餘ノ凶徒ヲ誰
 カ誅戮セシ。依テ先形ノ如ク恩賞ヲ申行フナリ。ソレ
 ヲ不足ニ存ストモ。許容ナセソト宣ケリ。重盛モ
 ニクマル、由内々聞ヘケレハ。既ニ誅セラレハ
 キナト風聞有ケルニヤ。面目ヲ失フノミナラス。
 身體危カリシカハ。急キ尾張へ逃下リケリ。此下唯出
杉原岡其朝宿ニ狂歌ヲ讀テ捨ケリ。
崎二本落ユケハ命ハカリハイキノカミ。其オハリコソ。杉原本云
身ノオハリ聞マホシケレ

○京師本杉原本鎌倉本半井本並云忠致申ケル

ハ。義朝鎌田ハ將門純友ニモ劣ラヌ朝敵ナリ

杉原本云。東國ニ下著シナハ。負任宗任陸奥國
 ニ楯籠リシヨリハ。ユ、シキ御大事ナルヘシ
 云シカルヲ國ノ亂ニモナサス。人ノ煩ニモア

ラヌ。速ニ討進ラセ候ヘハ。義朝ノ所領ヲ残ラ
 ス賜ハルカ。シカラヌハ住國ニテ候ヘハ。尾張

ヲ賜リテコソ勸賞トモ存候ハヌ。國ノハテ壹
 岐島ヲ賜リテハ。何ノ勇カ候ヘキト申ケレハ。

清盛宣ケルハ。天性汝等ハ罪科ノ者ソ。世ニア

ラント思へハトテ。相傳ノ主ト現在ノ壻ヲ討。汝等程ノ尾籠ノ者アラハコソ。サレトモ朝敵ト號スレハ。一國ヲモトラスルナリ。ソレヲ辭退申サハ力及ハスト宣フ。猶重テ訶訟申ケレハ。狼藉也トテ壹岐國ヲモ召返サレ。左衛門尉モ關官セララル。伊豫守重盛申サレケルハ。今日ハ人ノ上タリトイヘトモ。明日ハ我身ノ上タルヘシ。運盡^{ツキ}タラン時ハ皆角コソ候ハンスレ。諸人ノ見ル所モ候へハ。向後ノ爲奴原賜テ六

條河原へ引出シ

京師杉原鎌倉三本並云二十日ニ二十ノ指ヲ截首ヲ鋸ニ

テ斬候ハニ云々

首ヲ斬候ハニト申サレケレハ。長田

此由ホノ聞テ。急キ國へ逃下ル。云々。

惡源太被^レ誅^ル事

去程ニ同

按正月也

二十五日。鎌倉惡源太。近江國石山

寺ノ邊ニ忍テ居給ヒケルヲ。難波三郎經房カ郎

等

岡崎本云。橘ノサタツナ大勢ニテ押寄生捕。云々

生捕奉リテ六波羅へ

引テ參ル。去十八日三條烏丸ナル所ニヤツレオ

ハシケルヲ。平家ノ大勢取籠ケレトモ。打破テ落

ラレケルナリ。其故ハ惡源太父ノ教ニ任テ山道
 ヲ攻上ラントテ。飛驒國ニ下リ給フニ勢ノ屬事
 斜ナラス。然ルニ義朝討レ給ヒヌト聞ヘシカハ。
 皆心替シテ我身一人ニ成ヌレハ。自害ヲセント
 シ給ヒシカ。徒ニ死ナニヨリハ。親ノ敵ノ清盛父
 子カ間一人ナリ共討テ。無念ヲ散セント思返シ
 テ都ニ上リ。六波羅ニ臨テ窺給フ處ニ。左馬頭ノ
 郎等丹波國住人志内六郎景澄ト云者ニ行逢如
 何汝日來ノ契約ハト宣ヘハ。争カ忘奉リ候ヘキ。

去ナカラ身不肖ニレテ見知人モナケレハ。敵ヲ
 計テ命ヲツカニト存テ知者ニ附テ聽テ平家ノ
 被官ト成侍リ。御目ニ懸ルソ幸ナル。如何思召ト
 云ケレハ。即景澄ヲ憑テ彼ヲ主トシ。義平下人ニ
 成テ。物ヲ持テ六波羅ニ入。敵ニ近附テ窺見ラレ
 ケリ。景澄常ニシタ、メリケルニ。下人ト一所ニ
 在テ。敢テ人ニ見セサリレカハ。家主心元ナクヤ
 思ヒケニ。何トナク障子ノ隙ヨリ見居タレハ。景
 澄カ膳ヲハ下人ニスヘ。下人ノ飯ヲハ景澄食シ

カハ。哀此人ハ源氏ノ郎等ト聞ヘシカ。疑ナキ惡
 源太トヤラニヲ隱シ置テ。六波羅ヲ窺申ニコソ。
 餘所ヨリ聞ヘテハ惡カリナニトテ。急キ平家ニ
 此由告タリシカハ。取物モ取アヘス。十八日酉刻
 許ニ。難波次郎經遠三百餘騎ニテ押寄。四方ヲ取
 卷テ。鎌倉惡源太ノオハスカ。難波次郎經遠カ御
 迎ニ參候ト呼ハリケレハ。御曹司袴ノソハヲ高
 ク挾ニ。石切ヲ拔儘ニ。源義平爰ニアリヨレヤ手
 柄ノ程ヲ見セニトテ走出。眞前ニ進タル兵四五

人斬伏テ。小屋ノ軒ニ手ヲ打懸ヒラリト上リテ。
 家續ニ何クトモナク失給ヘルカ。
岡崎本此ニ載景
 澄被捕及誅
 節與此下園
 外異本全同石山ノ邊ニオハシケルナリ。惡源太
 六波羅ニテ宣ケルハ。我敵ニ窺寄シトテ。或時ハ
 馬ヲ扣ヘテ門ニタハスニ。或時ハ履ヲ捧テ縁ニ
 至テ相近附シトセシカ。運盡ヌレハ本意ヲ達セ
 スレテ。生ナカラ囚ハル、事力ナキ次第也。義平
 程ノ大事ノ敵ヲ。暫モ置事然ルヘカラス。速ニ誅
 セラレヨトテ其後ハ物モ宣ハス。聽テ難波三郎

ニ仰テ六條河原ニ於テ誅セラレケルニ敷皮ノ
上ニナラリテ些至モ臆セス申サレケルハ自段首
本有異同詳至此諸
畧別出下

○諸本並云。悪源太義平。越前國足羽マテトリテ
オハシケルカ。義朝討レヌト聞ヘシカハ。行末
モ然ルヘカラス。親ノ敵ナレハ平家ヲ一人ニ
テモ子ラヒ討ハヤト思ハレケレハ。足羽ヨリ
只一人都へ上リ。平家ヲ窺ハレケル程ニ。義朝
ノ郎等丹波國住人志内六郎景住志内名杉原
本與本書同

下働末座ノ者ニテアリシカハ。平家ヨリ尋モ
ナシ。剩縁ノミニツキ平家ニ奉公仕ケルカ。悪源太ニ
行逢奉ル。如何汝ハ景住カ。サニ候。何方ニアル
ソト宣へハ。身ノ捨難サニ。御代ニナラン程ト
存候テ。平家ニ奉公仕候ト申ケレハ。悪源太宣
ケルハ。日來ノ好ヲ忘レ給ハヌカ。争カ忘奉ル
ヘキ。サラハ義平ニ頼マレヨ。親ノ敵ナレハ一
人ナリトモ。平家ヲ子ラヒテ討ニト思フソ。承
候ト申セハ。汝ヲ主ニスへシ。義平ヲハ下人ニ

セヨトテ。志内六波羅へ出仕ノ時ハ。蓑笠ハキ
物體ノ物ヲ持テ。門ノ脇ニタハス三子ヲハル
ケレトモ。アレハ果報盛ナリ。運盡ヌル我身ハ
一人ナレハ更ニ隙ナシ。宿ハ三條烏丸也。主ノ
男云ケルハ。主ト云男ハ立居ノ舉動無骨也。物
云タル言葉ツキモ頑也。下人ト云男ハ立居舉
動尋常也。ウチ思タル有様世ニ超タリ。主ヲ下
人ニシテ。下人ヲ主ニシタラハ。相應シテヨカ
リナント云ケルカ。或時志内カ前ニハ飯ヲ結

構シテスヘ。悪源太ノ前ニハ無菜ノ飯ヲスヘ
タリ。杉原本云。宿ノ主障子ノ隙ヨリ是ヲ見レ
ニナラシ。我身ハ末座ニカレコマリテ。結構シ
タル飯ヲ奉リ。我ハ無菜ノ飯ヲソ食シケル。宿
ノ主能ク見テ。サレハコソ此間此人々ノ風情
ヲ見ルニ。作リ姿ノ人ヨト思ヒシカ。案ノ如ク
ハ。義朝御子息悪源太殿ニテマシマスカ。平家
ヲ子ヲヒ給フヨト心得。後日ニ聞
ヘテハアシカルヘシトテ云々。其時志内
ツイ立テ。我前ナル飯ヲ取テ。悪源太ノ御前ニ
サシ置。御前ニ有ケル無菜ノ飯ヲ取テ。志内食
シケレハ。家主ノ男障子ノ隙ヨリ是ヲ見テ。此

者ハ源氏ノ郎等ト聞上キリ。惡源太平家ヲ窺ハレ
 トテ。六波羅ニハ騷カクキ給フ。後日ニ聞ヘテハ惡
 カルヘシトテ。六波羅ヘ參リ。カ、ル事コソ候
 ヘト申ケレハ。サテハ惡源太ニテアルラン。召
 捕リテ參レトテ。難波次郎經遠ヲ
 遣ス。三百餘騎ニテ三條烏丸ニ推寄タリ。惡源
 太ノオハスル由承候。難波次郎經遠御迎ニ參
 候。疾々御出候ヘト申ケレハ。惡源太袴ノクハ
 ヲ取。石切ト云太刀ヲ拔テ大童ニ成。源義平是

經。半井鎌倉
本並作恒。差

ニアリ。見參セシトテ走出給ヘハ。兵左右ヘサ
 ツトノク。面ニ進ム者共二三人切伏。築地ノ覆オホヒ
 ニ手ヲ掛テツト越。家傳ニ何方トモナク打失
 又此下景住事
岡崎本全同。景住ハカリ生捕ニシテ。六波羅
 へ參縁ノキハニ引居タリ。清盛出向如何。汝當
 家ニ奉公シテ世ニ有ヘキ者カ。回忠タテマシテ切ル
 事ノ不便サヨト宣ヘハ。景住。源氏ハ相傳ノ
 主。御邊ハ今ノ主也。源氏ノ御代ニナラシ程ト
 存テ奉公セシト申ヲ。實ニシテ使ハル、御邊

コソ尾籠人ナレト申ケレハ。キヤツ狼藉也ト
 元。六條河原へ引出シ。松浦太郎重俊切手ニテ
 切ントスレハ。志内云ケルハ。景住ハ源氏ノ郎
 等也。平家ノ大將軍清盛ヲ敵ニ受テ死ナシ命。
 露塵ハカリモ惜カラストテ念佛申。歳二十三
 杉原本作ニテ切レケリ。以上景住カ事。岡崎本
 三十三。全同。而餘皆同。本文義
 平ハ大原靜原芥生里梅津桂伏見ノ方ニ晝ハ
 忍。夜ハ六波羅へ出テ子ヲハレケレトモ。運ノ
 窮ナレハ都テ隙コソナカリケレ。同。鎌倉本作
 閨非也。

正月二十五日ニ。悪源太東近江ニ知タル人ヲ
 頼下リテ暫休マントテ下ラレケルカ。相坂山
 ニ立入暫休給フ程ニ。前後モ知ス臥給ヘリ。難
 波。次郎經遠折節五十餘騎ニテ石山詣シテ下
 向シケルカ。關明神ノ御前ニテ法施進ラセケ
 ル程ニ。大路ヨリ一町許引入テ。悪源太臥テオ
 ハシケル上ニテ。飛行雁ノ左右ハハツト亂ケ
 レハ。難波是ヲ見テ。敵野ニ伏時飛雁行ヲ亂ル
 ト云本文アリ。彼ニ敵ノ在ニコソトテ。五十餘

騎馬ヨリ下テ搜ス程ニ。惡源太ノ臥テオハレ
ケルヲ見附テ。山中ニ唯今臥タルハ何者ソ。名
乗候ヘト云ヘハ。惡源太カハト起。源義平爰ニ
アリ。見參セニトテ散々ニ切廻ル。難波能引テ
發チケレハ。惡源太ノ小腕ニシタ、カニ立。難
波云ケルハ敵手負ツ。寄合ヤ者共ト下知レケ
レハ。兵共惡源太ニ寄合寄合戰フ。小腕ハ射ラ
レツ。太刀ノ柄思様ニモ握ラレ子ハ。ハカニ
クモ戰ハス。兵共數多落合テ。手捕足捕鬻捕テ

終ニ虜ニレ奉ル杉原鎌倉半井三本云。馬ニノセ。云々。六波羅へ參縁
ニ引居ケレハ。義平程ノ者ヲ。敵ナレハトテ縁
ニ置ヘキカトテ。引テ侍へ入給ヘハ。侍ニ居奉
ル。サテ清盛出向テ如何御邊ハ三條烏丸ニテ
三百騎カ中ヲ々ニ破テ出ラレケルニ。關山ニ
テハ僅ニ五十餘騎ニ捕レケルソト宣ヘハ。惡
源太ヲサ笑テ。異國項羽ハ百萬騎ヲ具スト云
ヘトモ。運盡ヌレハ敵高祖ニ捕レキ。義平運盡
ヌレハ力及ハス。口人共モ運盡タラニ時ハ角

源義平傳

コソアラニスル。終ニハ身ノ上ナランスルソ。
コトサラニ義平程ノ敵ヲ暫モ置テハ悪カル
ヘキソ。疾ク斬ヤト宣ヘハ。サラハトテ六條河
原ニ引出ス。上下河原ニ市ヲナス。悪源太アノ
雜人共ノケ候ヘ。西ヲ拜念佛申サント宣ヘハ。
左右ヘハツトノキニケリ。悪源太宣ケルハ。哀
平家ノ奴原ハ物モ覺ヌソトヨ。義平程ノ者ヲ。
云々以下粗同
敵ナカラモ義平程ノ者ヲ白晝ニ河原ニテ斬ル

事コソ遺恨ナレ。去保元ニ多クノ源平ノ兵共
誅セラレシカトモ。晝ハ西山東山ノ片邊ニテ斬。
適河原ニテ斬ル。夜ニ入テコソ斬レケル
ナレ。弓矢取身ノ習ハ。今日ハ人ノ上。明日ハ身ノ
上ニテ有物ヲ。平家ノ奴原ハ上下共ニ都テ情ナ
ク物モ知ラヌ者共也。去年熊野詣ノ時。路次ニ馳
向テ討ニト云シヲ。スカレ寄テ一度ニ滅サント。
信賴ト云不覺人カ云ニ附テ。今日懸ル取ヲ見
ルコソ口惜ケ。湯浅藤代ノ邊ニテ取籠テ討カ。

安部野ノ方ニ待受テ。一人モ残サス討取ヘカリ

シ物ヲト宣ヘハ。難波三郎鎌倉本作難波二郎恒遠京師杉原鎌倉半井

本並云。難波是ハ何ノ殿ハ後言ヲハシ給フヤ

ラントテ。太刀ヲ技テ寄ケレハ。汝ハ主ニハ似ス

物ヲ心得タリ。實ニ義平カ。是ハ何ノ後言ヲイハ

為ニ似合ヌ後言ソヤ云々。是ハ何ノ後言ヲイハ

セ申候ソト申セハ。惡源太アサ咲。イシウ云タリ。

實ニ我爲ニハ諍ハヌ後言ソ。ヤレ已ハ義平カ首

打程ノ者カ。情ノ所作ソ能キレ。惡ク斬ナラハ。レ

ヤ頬ニ喫附ニスルソト宣ヘハ。オコノ事ヲ仰ラ

ル、物哉。何條我手ニ懸奉ラニ首ノ争カ頬ニハ

喫附給ハント申セハ。誠ニ只今喫附ニスルニハ

非ス。終ニハ必雷ト成テ杉原本云。惡ク斬ナラハ

ト宣ヘハ。經房只今斬ルハ。人ノ切手ノ首ヲ子チ

ニソヤト云ケレハ。只今コソサハナクトモ。百日

ナリ。云々。蹴殺サニスルソトテ。殊更首高ラ

カニ差舉給ヘハ。經房太刀ヲ拔後ハ廻レハ。能斬

ト弁曉レタル眼サシ。實ニ凡人トハ見ヘサリケリ

○京師本杉原本鎌倉本半井本並云。百日カ中ニ

雷ニナリ。汝ヲ蹴殺サニ杉原本云。首子チスル

見ソトテ。手ヲ合念佛申ケレハ。難波背ニ廻ルト

見レハ首ハ前ニ落ニケリ。御年二十。サテ獄門ニ
梟ラレケリ。云々。

○按帝王編年記云。永曆元年正月十九日義朝長
子義平被誅。云々。本書諸本竝云。義平正月二十
五日被捕。未知孰是。又按系圖義平傳。正月十八
日被捕。二十一日被誅。云々。又義平斬首及此下
經房震死。共有異說。事涉怪誕。且世所普知也。今
不採。

清盛出家 并 瀧詣 附 惡源太為雷事

去程ニ仁安二年十一月。清盛病ニ侵サレ。年五十

一ニシテ出家シ。法名淨海トソ申ケル 以上唯出

崎二本以下。京師本杉原本鎌倉本半井本異別載

于段尾按公卿補任。清盛仁安二年五月十七日上

表辭太政大臣并兵仗輦車。即敕許。年五十。仁安三

年二月十一日依病出家。年五十一。法名清蓮。改靜

出家ノ故ニヤ宿病次第ニ本復シテ。翌年 仁安

夏ノ比。一門ノ人々面々ニ悦事ヲナシケル。同七

月七日攝津國布引瀧見ニトテ。入道ヲ始テ平氏

ノ人々下ラレケルニ。難波三郎計夢見惡キ事有

トテ供也サリシカハ。傍輩トモ弓矢取身ノ。何條

夢見物忌ナト云。サルオメタル事ヤ有ト笑ケレ
ハ。經房モ實モト思テ走下リ。夢覺テ參タル由申
セハ。中々興ニテ諸人瀧ヲ詠テ感ヲ催ス折節。天
俄ニ陰リ夥シクハタ、カミ鳴テ。人々興ヲ醒ス
處ニ。難波三郎申ケルハ。我恐怖スル事是也。先手
惡源太最期ノ詞ニ。終ニハ雷ト成テ蹴殺サニス
ルソトテ睨ミシ眼常ニ見ヘテ六箇敷ニ。彼人雷ト
成タリト夢ニ見シソトヨ。只今手鞠許ノ物。巽ノ
方ヨリ飛ツルハ。面々ハ見給ハヌカ。其コソ義平

ノ靈魂ヨ。一定歸サマニ經房ニ懸ラント覺ユルソ。
左有トモ太刀ハ拔テシ物ヲト云モ果子ハ。霹靂
夥敷シテ。經房カ上ニ黒雲掩フトソ見ヘシ。微塵
ニ成テ死ニケリ。太刀ハ拔タリケルカ。鐔本迄ソ
リ返リ岡崎本云。鐔本マタリシヲ。結縁ノ爲ニ寺
造ノ釘ニ寄ラレヌ。怖シナトモ疎也。入道ハ弘法
大師ノ御筆岡崎本云。眞筆ノ心經云。ヲ守ニ懸ラレタリシヲ。
恐シサノ餘ニ頸ニ掛ナカラ。打振打振ソセラレ
ケル。誠ニ守ノ德ニヤ。近附様ニ見ヘシカ。終ニ空

ヘソ上リケル。惡源太ハ十三歳鎌倉ニ下リ。去年
十九ニテ都ニ上リ。異ナル思出モナクシテ。生年
二十ニシテ。永曆元年正月二十五日ニ終ニ空シ
ク成ニケリ

○京師本杉原本鎌倉本半井本竝云。難波三郎恒
房ハ鎌倉本作二郎惡源太ヲ斬テ後。常ニハ邪
氣心地ソ出來ケル。恒房如何シテカ邪氣心地
ヲ失フヘシト云ヘハ。攝津國箕面。瀧へ參リ。瀧
ノ水ニ打レテモソ。邪氣心地ハ失ルト承候へ

ト人云ケレハ。ヤカテ箕面へ參リ。瀧壺ヲ見テ。
如何程深ク有ヤラント云ヘハ。寺僧トモ一里
深ク候トコソ申傳テ候ヘト云ヘハ。例ノ邪氣
心地起リテ。瀧壺へ走入。行衛モ知ス遙々ト入
ケレハ。水モナキ所へ行出タリ。美シク飾タル
御所ト覺シキ所アリ。門ノ口ニタ、スミケレ
ハ。内ヨリアレハ誰ソト問。平家ノ侍難波三郎
恒房ト申者ニテ候。サテハ難波ト云者コサニ
ナレ。疾歸シ。娑婆ニテ仔細カアラスルソ。其

長生三台物語 卷三

三

時參シト云ケレハ。是ハ何クニテ候ヤラン。歸
 テハ何トカ申ヘキト云ヘハ。是ハ龍宮也。參々
 ルヒシ驗ニ是ヲトラセントテ水精ノ塔ニ佛舍利
 ヲ一粒入テタヅ。懐中レテ門ヲ出ルト思ヒケ
 レハ。本ノ如ク瀧壺へ浮ウカヒ出ケリ。寺僧共ニ此
 由云ヘハ。身ノ毛ヨメ豎チテソ覺ケル。サテ都へ上
 テ此由ヲ申ケレハ。清盛不思議ノ思ヲナシ給
 也。西山ノ邊講谷寺ニ杉原本云セウコク寺云々籠ラレケ
 リ。去程ニ半井本鎌倉本云。同三難波、三郎恒房。
月。上月。按。永曆元年也。

福原へ清盛ノ御使ニ下リテ上ル程ニ攝津國
 昆陽野ニ著ケレハ。晴タル空俄ニ陰リテ雷驟
 敷鳴ケレハ。難波云ケルハ。惡源太ヲ斬シ時。雷
 ニ成テ汝ヲ蹴殺サント云ニヨリ後ハ。雷々ニ
 ナレハ思出ラレテ。怖オホシキソト云ケレハ。乘替
 トモ。唯今鳴候雷モ惡源太ニテヤ候ラント云
 へハ。何條其義アルヘキ。惡源太斬タリシ太刀
 ソカニトテ。太刀ヲ拔テ額ヒニアテ打テ行程ニ。
 アマリニ雷強ク鳴間。郎等以下松下ニ控ヘ控

へ見ル所ニ。雷ハタト為落ケレハ。難波持タル
太刀ナレハ。ト、打。打トモ物ニテモナク。馬
共ニ蹴殺サレテソ伏ニケル。都ニモ六波羅ニ
モ雷夥シク鳴落鳴落。人多ク蹴殺レケレハ。清
盛大ニ騷給ヒ。貴僧高僧ニ仰テ。眞讀ノ大般若
ヲ讀セラレケレハ。即雷静リヌ。云々

○按於布引瀧暴雷震死者。本書及京師杉原半井
岡崎四本。作難波三郎經房。是斬義平者。因爲義
平冤魂所爲也。鎌倉本斬義平及震死者。作難波

恒遠。盛衰記載。難波六郎經俊。依重盛命。入布引
瀧。及出震死。三說不同。半井本鎌倉本並云。同三
月上旬。難波震死於攝州昆陽野。云々。是爲永曆
元年三月事。本書爲仁安三年七月七日事。亦不
同。又按盛衰記。經遠經房。壽永中尚存。在一谷城。
諸說未知適從。十訓抄載經房震死。出于下。可并
考。

○十訓抄云。平家ノ侍難波三郎經房ト云者。福原
ヨリ京へ上リケル道ニテ。雷ニ蹴ラレタリケ

ルニ。安藝守清盛。越中前司盛俊。同シク打連タ
リケレトモ。二人ハ事ナカリケリ。盛俊ハ馬ハ
カリソ損シタリケル。經房モトヨリ佛神ノム
キ給ヘル方モ知サリケリ。太刀拔テ肩ニ打懸
タリケレトモ。仕出シタル事モナカリケリ。云々

頼朝被生捕附常磐落事

斯ル處ニ同二月九日。義朝ノ三男前右兵衛佐頼
朝尾張守ノ手ヨリ生捕テ。六波羅ニ著給フ。同次
男中宮大夫進朝長ノ首ヲモ獻ラル。其故ハ彼尾

張守家人彌平兵衛宗清平季宗子尾州ヨリ上洛シケ

ルガ。不破關ノアナタ關原ト云所ニテ。ナメイ
タル小冠者。宗清カ大勢ニ恐レテ。藪ノ蔭ヘ立忍
ケレハ。怪シミテ搜ス程ニ。隠レ所ナクシテ囚ハ
シ給フニ。宗清見レハ兵衛佐殿ナリシカハ。喜フ
事限ナシ。應テ具足シ奉リテ上ル程ニ。青墓ノ大
炊カ許ニソ宿シケル。聊聞及事有ケレハ聞及云
有誤字。今何トナク後園ニ出テ見廻スニ。新シク
從同崎本壇塋タル所ニ。率都婆一本立タリ。即其下ヲ掘セ

テ見ケレハ。幼キ人ノ首ト骸トヲ差合テ埋タリ。
 是ヲ取テ事ノ仔細ヲ尋レハ。カナク大炊有人儘
 ニソ申ケル。宗清悦テ同持參シケルナリ。依テ頼
 朝ヲハ先宗清ニソ預置ケル。以上京師杉原鎌倉
 半井四本説異也。別
 載于下。按本書及岡崎本前云。頼朝出青墓。赴東國。
 餘本云。頼朝在青墓。爲宗清被捕。此下逐段與本書
 岡崎本次序又不
 同。當詳照應互見。

○京師本杉原本鎌倉本半井本並云。頼朝ハ青墓
 ニ忍テオハシケルニ。三川守頼盛尾張國ヲ賜
 テ。彌平兵衛宗清ヲ目代ニ下サレケル程ニ。青

墓宿へ著。其夜遊君ヲ一人留タリケルニ。彼女
 長者ノ許ニ兵衛佐殿オハシマス由云ケレハ。
 我ハ平家ノ侍。アレハ源氏ノ敵。争カ漏スヘキ
 ナレハ。宗清長者ノ宿所へ押寄。右兵衛佐殿是
 ニ忍テオハスル。出スヘシト云ケレハ。大炊夜
 又御前ノ御前ニ參リ。佐殿ニ此由申セハ。存知
 テ候トテ自害セントシ給フ處ニ。平家ノ侍共
 押入テ。佐殿ヲ見奉リ。透モナク兵數多走寄テ。
 刀ヲ奪取。佐殿ヲ虜奉ル。宗清ヤカテ出ケレハ。

妹ノ姫君我モ義朝ノ子也。女子ナリトモ助置
テハ悪カルヘシ。具シテ行テ。右兵衛佐殿ト一
所ニテ失フヘシトテ。臥マロヒ泣^{ナカ}レケレハ。兵
共哀ニソ覺ケル。サテ都へ上リ平家ノ見參ニ
入ケレハ。神妙也トテ。ヤカテ宗清ニ預置レケ
リ。清盛。右兵衛佐殿へ使者ヲ以テ。御邊ノ鬚切^{ヒゲキリ}
ハ何クニ候ソト宣へハ。今ハ隠シテモ何カセ
ニト思ハレケレハ。青墓^{アヲ}長者ノ許^{モト}ニソ候ラニ
ト申サレケレハ。難波六郎恒家ヲ使者ニテ。大

炊カ許へ右兵衛佐頼朝ノ鬚切有ナル。進ラセヨ
ト宣へハ。長者此由ヲ聞。源氏重代ノ太刀ヲ平
家ノ方へ取ル、事^{コト}ソ口惜ケレ。佐殿^{サタ}コソ斬^キ
レ給フトモ。義朝ノ公違多クオハシマセハ。平
家ノ運末^{トキ}ニナラニ時。源氏世ニ出給ハ又事^{コト}
モアラニ。其時此太刀ヲ進ラセタラハ。如何ヨ
カリナニ。如何セニト思ヒケルカ。泉水トテ鬚
切ニモ劣^{オト}ラヌ太刀アリ。是ヲ進ラセタラニ程
ニ。兵衛佐殿ノ許へ遣シテ尋ラレニ時。ワラハ

ト同心ニテ鬚切ト仰ラレハ然ルヘシ。若アラ
又由申サセ給ハ。平家ヨリ答ノ有ニ時。女
ニテ知サル由陳シ申サレニ。別ノ仔細ハアラ
シトテ。鬚切ハ柄鞘圓カリケルヲ拔替テ。泉水
ヲ進ラセタリ。案ニ違ハス。佐殿ノ許ヘヤリテ。
鬚切カアラヌ太刀カ正直ニ申サルヘシト宣
ケレハ。佐殿アラヌ太刀ヨト思ハレケレトモ。
大炊モ仔細アリテソ。鬚切ヲハ留タルラント
テ。ヤカテ鬚切ニテ候ト申サレケレハ。清盛大

ニ悦テ深ク納置云々 此鬚切説見下本書及岡崎本頼朝舉義兵段可并見

其時延壽腹ノ姫君。兵衛佐ノ召捕レ給ヒテ都へ
上ラレケレハ。我モ義朝ノ子ナレハ。女子ナリト
モ終ニハヨモ助ラレシ。一人一人失ハレニヨリ
ハ。佐殿ト同道ニコソ。セメテナラメトテ伏沈給
ヒケルヲ。大炊延壽色々ニ慰メテ取留奉リケリ。
其瀨過ケレハ。サリトモト思ヒ心ユルシケルニ
ヤ。二月十一日夜。夜。又御前只一人青墓宿ヲ出。遙
隔リタル枕瀨河ニ身ヲ投テコソ失給ヘ。十一歳

源氏物語 卷三

トソ聞ヘシ。武士ノ子ハナドカ、幼キ女子モ猛カ
ルラニトテ。哀ヲ催サヌ者モナカリケリ。

○源師本杉原本鎌倉本半井本竝云。佐殿ノ妹夜
又御前ハ。佐殿生捕レ給ヒテ後。湯水ヲモキコ
シメシ入ス。歎悲ナキカミマレケレハ。大炊モ延壽モ。如
何加様ニ歎給フソ。御命ナカラヘテコソ。頭殿
ノ御菩提ヲモ弔給ハニスレト申セハ。其後ハ
少慰ナキ給ヘル氣色ニ見ヘケレハ。大炊モ延壽モ
嬉ウレシシク思ヒ打トケテ。イタクハ附副奉ラス。乳

母ノ女房モ嬉シク思ヒテ。油断シテ在ケル處
ニ。二月一日夜ニ入テ。只一人遙ニ隔リケル株
瀬川ニ尋行。御歳十一ニテ身ヲ投給フ。夜明ケ
レハ。乳母ノ女房姫君渡リ給ハヌソヤト云ケ
レハ。大炊延壽周章アハテ騷ウラガキ尋奉レトモ見ヘ給ハ
ス。サテ如何セニト歎ク處ニ。旅人申ケルハ。株
瀬川ノ汀ミニコソ。稚人オホキノ死骸ヲ取上。如何ナル
人ヤラントテ人ノ見候ツレトイヘハ。サテハ
姫君ニテオハシマスヤラントテ。大炊延壽乳

母ノ女房達尋行見レハ。夜又御前ニテソオハ
 レケル。空シキ死骸ヲ御輿ニ昇入テ。宿所へ歸。
 泣悲シメトモ。終ニ空シク成給ヒレカハ。中宮
 大夫進ノ御墓ニナラヘテ供養ス。云々
 母ノ延壽ハ志深カリシ頭殿ニモ後レ奉リ。其形
 見トモ思慰シ。姫君ニモ別レニケレハ。一方ナラ
 又物思ニ。同流ニ身ヲ沈メント歎ケルヲ。大炊様
 ニニコシラヘケレハ。母ノ心モ破リ難クテ。セメ
 テノ悲シカニ尼ニ成。亡夫并姫君ノ後世ヲ他事

ナク弔ケルト也。六波羅ヨリ左馬頭子共尋ラレケ
 ルニ。既ニ三人出來タリ。兄二人ハ早首ヲ梟ラレ
 又頼朝モ臆テ誅セラルヘシ。此外九條院雜仕常
 警腹ニ三人アリ。皆男子ニテアナリトテ尋ラレ
 ケレハ。常警是ヲ聞テ。我故頭殿ニ後レ奉リテセ
 ン方ナキニモ。此忘形見ニコソ今日迄モ慰ムニ。
 若敵ニモ捕ハレナハ。片時モ堪テ有ヘキ心地モ
 セス。サレハトテ墓々敷立忍フヘキ便モナシ。身
 一ツタニモ隠シ難キニ。三人ノ子共引具シテ。誰

カハ暫シ宿スヘキト泣悲ケルカ。餘ニ思得ル方
 モナキ儘ニ。年來憑奉リタル觀音ニコソ歎申サメ
 トテ六波羅云々至此。京師杉原鎌倉半井、四本不
 盛宣ケルハ。池殿サリカタク宣ケレハ。頼朝ハ助
 ケ流罪ニ定ムヘシ。常盤腹ニ子共三人アリ。尋出
 シ目前ニテ皆失フヘシト宣フ。人來テ此
 由知セケレハ。常盤聞テ二月九日。云々
 二月九日、夜ニ入テ。三人ノ少人ヲ引具シテ。清水寺ヘコ
 ソ參ケレ。母ニモ知セシト思ケレハ。乳人ワラハ
 ノ一人ヲモ具セスレテ。八ツニナル今若ヲハ前
 ニ立テ。六歳ノ乙若ヲハ手ヲ引。牛若ハ二ツニナ

レハ懷ニ抱ツ。夕ソカレ時ニ宿ヲ出。脚ニ信テ
 タドリ行。心ノ中コソ哀ナレ。佛前ニ參テモ。二人
 ノ子共ヲ脇ニ居至。只サメスト泣居タリ。終夜ノ祈
 請ニモ。ワラハ九ツノ年ヨリ月詣ヲ始テ。十五ニ
 成迄ハ十八日コトニ三十三卷ノ普門品ヲ讀奉
 リ。其年ヨリ毎月法華經三部京師杉原鎌倉半井
 ヨリ月詣怠ラス。十三歳ヨリ每本並云。ワラハ七歳
 月三部ノ法華經怠ラス。云々
 コトニ日。京師杉原鎌倉半井本作月此三十三體ノ聖容ヲウツ
 シ奉ル。如此ノ志。大慈大悲ノ御誓ニテ照シ知召

法華經三昧耶經卷三

ナラハワラハカ事ハ鬼モ角モ只三人ノ子共ノ甲
斐ナキ命ヲ助サセ給ヘトクドキケリ。誠ニ三十
三身ノ春ノ花ユメ旬ハ又袖モアラシカシ。十九說法
ノ秋ノ月照サヌム子モナカルヘケレハ。流石サカニ
千手千眼哀トハミソナハシ給フ覽トソ覺ケル。
漸曉ヤウクアキニモ成行ハ。師ノ房ヘ入ケルニ。日來ヒヨロハ左馬
頭ノ最愛ノ妻ナリシカハ。參詣ノ折々ニハ。供ノ
人ニ至ルマテ。キヨケニコソ有シカ。今ハ引替テ
身ヲヤツセルノミナラス。盡ツキセ又歎ニ泣シホレ

ヌル姿目モアテラレ子ハ。師ノ僧餘リノ悲ニサ
ニ年來ノ御情争カ忘進ラセニ。幼キ人モイタハ
シケレハ。暫ハ忍テマシマセカシト申セハ。御志
ハ嬉敷侍レトモ。六波羅近キ所ナレハ暫モ如何
侍ラニ。誠ニ忘給ハスハ。佛神ノ御憐ミナシヨリ外ハ憑
方モ侍ラ子バ。觀音ニ能ク祈申テタヒ給ヘトテ。
又夜中ニ出ケレハ。房主泣々唐太宗ハ佛像ヲ禮
レテ。榮花ホノハヲ榮。舊誤作榮。今從異本。一生ノ春ノ風ニ開ヒラキ。漢
明帝ハ經典ヲ信シテ。壽命ヲ秋ノ月ニ延ト申セ

ハ。三寶ノ御助空シカル間敷候ト慰メケリ。宇多郡ヲ心サセハ。大和大路ヲ尋ツ、南ヲ指テ歩ムトモ。習ハヌ旅ノアサタチニ。露ト争フ我涙袂モ裾モシホレケリ。二月十日ノ事ナレハ。餘寒猶烈シク京師杉原鎌倉半井本嵐ニ凝ル道芝ノ氷ニ足ハ破レツ、血ニソム衣ノ裳子故餘所ノ袖サヘシホレケリ

○諸本並云。今若殿ヲ前ニ立。乙若殿ノ手ヲ引牛若殿ヲ懷ニ抱。二人ノオサアヒニハ物モハカ

セス。氷ノ上ヲ徒跣ニテソ歩マセケル。寒ヤツメタヤ母御前トテ泣悲シメハ。衣ヲハ幼キ人々ニウチキセ。嵐ノドケキ方一立テ。我身ハ烈シキ方ニ立。育ミケルソ哀ナル。小袖ヲ解テ足ヲ裏ムトテ常磐云ケルハ。今少行テ棟門立タル所アリ。是ハ敵清盛ノ家也。聲ヲ出シテ泣ナラハ。捕ハレテ失ハレンス。命惜クハ泣ヘカラスト云イモ舎テソ歩マセケル。棟門立タル所ヲ見テ。今若殿。是候カ敵ノ門ハト問ハ。泣々ソレ也

後三台物語 卷三

ト打領ツツク。サテハ乙若殿モ泣ヘカラス。我モ泣
 マシキソト云ナカラ步行ケルニ常磐云々至
此岡崎本不載小袖ニテ足ハ裏ツミタレトモ。氷ノ上ナレハ程
 ナクキレテ。過行跡ハ血ニ染ツム云々
 ハフミ伏見ノ伯母鎌倉本作伯父ヲ尋行タレトモ。古源
 氏ノ大將軍ノ比、方ナト云シ時コソ。結タヒモ親トモニ
 シカ。今ハ謀反人ノ妻子トナレハ。ウルサシトヤ
 思ヒケン。物詣シタリトテ情ナカリシカ共。若モヤ
 ト暫ニヒハ待居マツツ。待期モ過ステ立返シハ。日モ早臈

テ林ニケリ。又立寄ヘキ所モナケレハ以下京師杉原鎌倉
并井四本異怪シゲナル柴ノ戸ニタ、スミシニ。
別出下内ヨリ女立出テ。情有テソ宿シケル。世ニタ、又
 身ノ旅タビ寝トテ。浮ウキ跡シケキ竹ノ柱。アル甲斐モナ
 キ命持テ。獨歎クソスカノ七ナフト思フ人ハナシ。
 サレト今宵モミフニ只。伏見ノ里ニ夜ヲ明シ。出
 レハ臈テ木幡山馬ハアラハヤ歩カキニテモ。君ヲ思
 ヘハ行ソトヨト。幼キ人ニ語リツ、イガナヒ行
 ハ。此人々歩疲テ平伏給フ時ハ。一人ヲ抱ケル上

源氏物語

卷三

三

ニ。二人ノ人ノ手ヲ引腰ヲ押へテ。行惱ニタル有
 様。目モアテラレス。玉^ホ鉾ノ道行人モ怪レメハ。是
 モ敵ノ方様ノ人ニヤト膽ヲ消處ニ。旅人モ哀ニ
 思ヒケレハ。見ル者コトニ負抱テ助行程ニ。泣々
 大和國宇多郡龍門ト云所ニ尋至リ。伯父ヲ憑テ
 ソ隱レ居ニケル。按盛衰記。無常磐逃匿之文。載於
 此。下常磐出六波羅段。可并見
 ○京師本杉原本鎌倉本半井本竝云。常磐アル小
 屋ニ立寄宿申サニト云へハ。主ノ男出テ見テ。
 唯今夜深テ幼キ人々引具レ迷ハセ給フハ。謀

及人ノ妻子ニテソマシマスラン。叶フマシト
 テ男内へ入ニケル。主ノ女出テ見テ云ケルハ。
 我等用斐甲斐敷身ナラ子ハ。謀反人ニ同意シ
 タリトテ。^ト答ナトハヨモアラシ。高キモ卑キモ
 女ハ一ツ身ナリ。入セ給へトテ常磐ヲ内へ入。
 様々ニモテナシケレハ。人心地ニソ成ニケル。
 夜モ明ケレハ常磐出ントス。主ノ男オサアヒ
 人々ヲイトオシク思ヒ奉リ。今日討ハ公達ノ
 御足ヲモ休メ進ラセ給へトテ留メケレハ。其

日モソレニ留リテ。三日ト申セハ出エケリ。主ノ男馬鞍ウマカサ拵ツクリテ常磐ヲ乗ノリ。幼キ人々ヲハ下人共ニモラセナトシテ。已モ供オモシテ水津マテ送オウリテ歸ケレハ。世ニ在トモ聞ハ尋ヨ。我モ忘ルマシキソトテ。小袖ヲ一重取セケレハ。争イカカ給ヒ候ヘキ。公達ノ御足ヲモ褰ウキ進ラセ給ヘト申セハ。主ノ方ヘ形見ニ送ルソ。謀反ノ者ノ妻子ニテアルカ。人ヲ尋テ忍フナリ。跡ヨリ尋ル者有トモ。知スヘカラスト云ヘシトテ立別レ。大和宇

多郡龍門リウモン牧岸岡ウシノカト云所ニ伯父ノ在レヲ尋テ行ケレハ。暫時是ニ忍ハセケリ云々。頼朝被定遠流事除_ニ兵越_ニ戰_ニ事_ヲ。サハ程ニ兵衛佐ハ。イマタ宗清カ許モトニオハシケレハ。尾張守ヨリ丹波藤三國弘ト云小侍一人附ラレケリ。既ニ今日明日誅セラレ給フベレト聞ヘシカバ。宗清御命助タカノカラシトハ思召候ハズヤト申セハ。佐殿去保元ニ多ノ叔父親類ヲ失ヒ。今度ノ合戰ウチ父討シ兄弟皆失リヒヌレハ。僧法師ニモ成テ

家盛傳記 卷三

父祖ノ後世ヲ弔トシラハバヤト思ヘハ。命ハ惜オシキツト
宣ヘハ。宗清モ哀ニ覺テ。尾張守頼盛ノ母池禪尼宗藤
兼ヲ申ハ。清盛ノ爲ニハ繼母ニテオハセトモ。重オモ
ク執シ給ヘハ。彼方ナドニ附テ申サセ給ハ。若モシ
御命助リオハシマ事モ候ヘキ物ヲ。彼尼ハ若ワカ
キヨリ慈悲深フカキ人ニテ御渡候其上一日參テ候
時オシ已トシカ許コトニ頼朝カアナル。如何ナル者ゾト問ハ
セ給ヒシカハ。御年ノ程ヨリ殊外オトナシヤカ
ニ候。其姿スカタ右馬助殿家盛。按ス。系圖。作テ右馬頭。爲頼盛兄。ニイタク似ニ

進ラサセ給ヒテ候ト申しカハ。世ニ床モチレケニ思
召タル御氣色ニテユソ候シカト語申ケレハ。ソ
レモ誰人カ申テ給フヘキト宣ヘハ。左モ思召候
ハバ。叶ハヌ迄モ某申テ見候ハントテ。池殿へ參
リ。何者カ申テ候ヤラニ。上ノ大慈悲者ニテオハ
レマス。トテ。哀アハレ頼朝カ命ヲ申助サセ給ヘカシ。父
ノ後世弔ハント申サレ候シカ痛ハシク候。然ル
ヘキ様ニ御計ヒ候ヘカシト申セハ。ソモ頼朝ニ
尼ヲ慈悲者トハ誰カ知セケル。イサトヨ故刑部

家盛傳記 卷三

御ノ時ハ。多クノ者ヲ申免シ、カ。當時ハ如何侍
ラニ。サテモ右馬助ニイタク似タラニ無慙サヨ。
家盛タニアラハ。鳥ニ成テ雲ヲ凌キ。魚ニ成テ水
ニモ入。誠ニ來世ニテモ逢ヘクハ。只今死シテモ
行ニト思フソトヨ。サテイツ斬ルヘキニ定リタ
ルソト宣ヘハ。十三日トコソ聞ヘ候ヘト申セハ。
叶ハヌマテモ申テコソ見メトテ。小松殿其時ノ
勲功ニ伊豫守ニ成給ヒシカ。正月ヨリ左馬頭ニ
轉シ給ヘルヲ公卿補任云。永曆元年正月二十七日兼左馬頭呼奉リテ。

頼朝カ尼ニ附テ命ヲ申助ケヨ。父ノ後世ヲトハ
ニト申ナルカ餘ニ不便ニ侍ル。能様ニ申テ給ヘ。
殊ニ家盛カ稚々チニ少モ違ハスト聞ハ。懷敷コ
ソ侍レ。右馬助ハソレノ御爲ニモ叔父ソカニ叔父
舊誤作伯父今改之頼朝ヲ助テ家盛カ形見ニ尼ニ見セ給
ヘト宣ヒケレハ。重盛參テ父ニ此由申サレケリ。
清盛聞テ池殿ノ御事ハ故殿ノ渡ラセ給フト思
奉レハ。如何ナルアマ逆ノ仰ナリトモ。違フマシ
トコソ存スレトモ。此事ハ由々敷重事ナリ。伏見

中納言。越後中將ホトカ様ナル者ヲハ。何十人助
置タリトモ。大事有_レ。大抵弓矢取者ノ子孫ハ。
ソレニハ異ナルヘキ上。義朝ナトカ子共ハ。幼ケ
ントモ仔細アルヘキ物ヲ。殊ニ頼朝ハ官加階モ
兄ニ超ルハ。由々敷所カアルニヤ。父モ見ト_レ。大
侍レハコソ。重代ノ中ニモ取分秘藏ノ物具ナト
與ケメ。旁助置難キ物ヲトテ以。外ノ氣色也。左馬
頭歸參テ叶難キ題目ナル由申サレケレハ。池殿
涙ヲ流シテ。哀戀シキ昔哉。忠盛ノ時ナラハ。是程

ニ輕クハ思ハレ奉ラシ。一門ノ源氏皆滅侍リ。ア
ノ幼キ者一人助置レタリトモ。如何許ノ事カ侍
ニ。前世ニ頼朝ニ助ラレケル故ヤラニ。聞ヨリイ
タハシク不便ニ侍ルソトヨ。御身ヲ疎トハ思奉
ラ子トモ。一ハ使カラト申事ノ侍レバ。ナドマメ
ヤカニ打クトキテ。猶叶ハスシテ終ニ失ハレハ
尼カ甲斐ナキ命生テ何カセニ。其上右馬助カ面
影ニ似タリト聞ヨリ。イツシカ家盛カ事思ハレ
テ。ハタト胸塞リ湯水モ快ク飲_レ。子ハ自ラ久シ

カルヘシトモ覺候ハス。哀尼カ命ヲ生サント思
召ハ。兵衛佐ヲ助テ給ヘカシト歎給ヘハ。重盛モ
迷惑セラレケルカ。涙ヲ抑ヘテ左候ハ。今一度
御談ノ趣ヲ申テコソ見候ハメ。同夕尾張殿ヲモ
添申サレ候ヘ。諸共ニ仰ノ由委ニク語り候ハニ
トテ。頼盛ト共ニ重テ此由ヲ申サレケレハ。清盛
モ流石岩木ナラ子ハ案ニ煩ハレケルニ。重盛女
姓ノイハケナキ御心ニ思沉テ申サセ給フ事ヲ。
サノミハ如何仰候ヘキ。然ルヘキ。御計ヒモ候ハ

スハ。御恨深ク候ベシ。又ノ頼朝一人誅セラレ候
共。盡ニ御果報ノ長久ナルヘキニ非ス。當家ノ運
末ニナラハ。諸國ノ源氏何レカ敵ナラサラニ。又
助置レタリトモ。榮耀後輩ニ及フヘクハ。何ノ恐
カ候ベキト理ヲ盡シテ申サレケレハ。先十三日
ヲハ延ラレテ。慥ノ返事ハナカリケリ。然レハ今
日斬ル、明日失ハル、ナト聞ヘシカトモ。其日
モ延ケレハ。兵衛佐是ハ偏ニ氏神ハ幡大菩薩ノ
御助也ト。彌心中ニ祈念深クソオハシケル。角一

日モ命延タラハ念佛ヲモ申經ヲモ讀テ父ノ後
世ヲ弔ハントテ率都婆ヲ作ラントシ給ヘトモ
人刀ヲ許シ奉ラ子ハ丹波ノ藤三ヲ語ヒテ小刀
井水ノキレヲ乞給ヘハ國弘何事ノ御手スサヒ
ソヤ頭殿ヲ始進ラセテ御兄弟多ク失サセ給フ
ニ御經ヲモアソハサデト申セハ兵衛佐天下ニ
物思フ者我ニ勝ル人アラシトコソ思ヘ去年三
月ニ母ニ後シ今年正月父討シ給フ義平朝長ニ
モ別シ奉ルサレハ此人々ノ菩提ヲモトハント

思テ率都婆ヲナリトモ作ラバヤト思フ故也就
中故頭殿ノ六七日モ今日明日ナリ四十九日モ
近附バ異ナル供佛施僧ノ儀コソ叶ハストモソ
レヲセメテノ志ニセント思ヘハ刀ヲ尋ル也ト
宣ケレハ國弘モ哀ニ覺テ彌平兵衛ニ此由ヲ語
レハ宗清感シ奉リテ小サキ率都婆百本作リテ
奉ル自モ造立書寫シテ或僧ニアツラヘテ形ノ
如ク供養ノ儀ヲソ遂ラレケル池殿加様ノ事共
ヲ聞給ヒテ彌イタハシク思召ケレハ様々ニ申

義平朝長

カレテ流罪ニソ定リケル。按公卿補任。愚管鈔。朝永曆元年三月十一日配流。盛衰記云。賴朝始ハ伊勢國御座島ニ遷サ。是ハ郡近シトテ。ソレヨリ東路ノ末伊豆國北條蛭小島ニ遷サ。ル云々。可并考。

○按以上日時。本書岡崎本無異。而與餘本不合。今通考之。賴朝見捕。本書爲二月九日。餘本不日。日。賴朝妹投水死。本書爲二月十一日。餘本爲二月朔日。本書又云。賴朝捕在宗清家。憑宗清請赦於池。尼。尼請於清盛。而姑緩刑。延日。及二月十三日。賴朝造塔婆。禱父冥福。尼益感愴。固請赦賴朝於

是定流罪云々。餘本云。賴朝捕在宗清家。二月七日造塔婆。薦父冥福。宗清爲賴朝請赦於池。尼。尼請清盛。因得所流云々。大低異。所如此。其間又有大同小異。次叙前後。因異說全出于下。可并考。
○京師本杉原本鎌倉本半井本竝云。賴朝ハイニ夕稚カニ也。手水ナトヲモ取トテ。池。尼御前ヨリ。丹波。藤三國弘ト云。小侍一人附テ。タリ。二月七日ノ徒然ニ。佐殿國弘ヲ召テ。小刀ト檜木ヲ尋テ。タヘ上宣ヘ。八國弘申ケルハ。頭殿ヲ始

進テセテ。御兄弟餘多^タ失サセ給候ヌ。御經ヲモ
アツハシ御念佛ヲモ申サセ給候テ。御菩提ヲ
モ弔給候ハテ。何事ノ御手ヌサヒノ候ヘキソ
ト申セハ。佐殿宣ケルハ。天下ニ物ヲ思フ者ハ。
頼朝ニ増^ニリテ二人トモ有ヘキカ。去年三月ニ
母ニ後シ奉ル。頭殿討シ給ヒ。悪源太大夫進モ
失給ヒヌ。中ニモ正月三日頭殿討シ給ヒヌ。今
日ハ二月七日ナレハ。五七日ニ成ソカシ。頼朝
世ニタニ有ナラハ。如何ナル佛事ヲモ行フヘ

ケレ共カ。ル身ナレハ力ナシ。サレハ率都婆
ノ一本ヲモ刻^キ三。念佛ヲモ書テ御菩提ヲ弔奉
ラハヤト思フニコソ。小刀槍木ヲハ尋ヌレ。手
スサヒニハアラストテ涙ヲ流シ給ヘハ。國弘
モ哀ニ思テ。宗清ニ此由云ヘハ。小^チ率都婆ヲ
百本作テ進ラセタレハ。念佛ヲ書給ヒ。僧ヲ請
シテ供養セハヤト宣ヘハ。宗清カ知タル僧ヲ
入奉ル。佐殿著^キ給ヘル小袖ヲ脱^キテ僧ノ前テ置
頼朝世ニタニ候ハシ。如何ナル布施ヲモ仕ルヘ

夕候へ共懸ル身ト成候へハ力及ハス。率都婆ノ
 供養ヲ演テ給候下宣へハ。僧哀ニ覺テ。率都婆
 ノ日出度様。佐殿ノ御志深クオハヒ。ス由ヲ
 申開キ。鐘打鳴シケレハ。佐殿涙セキアヘス。宗
 清以下ノ輩モ皆涙ヲソ流シケル。杉原本云。宗
 清哀御命ノ
助リ給へカシト申
 ケレハ。佐殿宣云々宗清御命ヲハ助ラントハ
 思召ヌヤラント申ケレハ。佐殿保元平治合戦
 ニ。一門兄弟失果父モ討レヌ。後生ヲ弔奉ラニ
 ト思へハ。殊ニ命ハ惜キソト宣へハ。宗清申ケ

ルハ池。禪尼ト申ハ極テ慈悲者ニテオハシマ
 シ候カ。一年山法師ノ呪咀ニテ空シク成給シ。
 右馬助家盛ノ御姿ニ少モ違給ハス候へハ。杉
 原
本云此由ヲ聞。此程國弘ヲ附
 置加様ニ御心添様々也。云々此由申給ハ。御
 命ヲハ申助給フ事モヤ候ハント申。ソレモ誰
 シテカ申へキト宣へハ。叶ハヌマテモ宗清申
 見ントテ池殿へ参タリ。池。禪尼。頼朝ハイツ斬
 ル。ソト宣へハ。今月十三日ト承ト申。サテハ
 義朝ノ子共ハ皆失ハニスルコサニナレト宣

へハ。宗清何者カ申候ヤラニ。上ノ慈悲者ニテ
候由承ハラレ。附進ラセテ命ハカリ申助リテ。
父ノ後生ヲ弔ハヤト歎候カ。故右馬助殿ノ御
姿ニ少モ違候ハスト申ケレハ。池殿尼カ慈悲
者トハ。頼朝ニハ何者カ知セケルソ。忠盛ノ時
コソ斬ヘカリシ者ヲモ多ク申助シカ。清盛ノ
世ニハ申トモ叶ハシ。中ニモ右馬助ノ姿ニ似
タルコソ悲シケレ。右馬助タニマルト聞ハ。鳥
ニ成テモ雲ヲ分。魚ニ成テ水底ニモ入ハヤト

思フ也。後世ニテ逢ヘシトタニ聞ハ。只今ニテ
モ飢死モシ。尋見ハヤト思ヘ共。六道四生ノ間
行方定ラスト聞ハ。カ及サル事也。
養ト思ヒ 叶ハヌマチモ申テコソ見メト宣ケ
テ。云々。 叶ハヌマチモ申テコソ見メト宣ケ
レハ。宗清歸テ佐殿ニ此由申セハ。實シカラス
トソ思ハレケル。
杉原本云。實シカラスハ思ハレケレトモ先御意候ヘハ有難クコソ候ヘトソ 池殿伊豫守重盛ヲ呼寄。頼朝
申サレケル。云々。カ尼ニツキ命ヲ申助リ。父ノ後世ヲモ弔ハヤ
ト歎クナルカ。故家盛ノ姿ニ少モ違ハスト聞。

家盛ハ清盛ノ弟ナレハ。御邊ノ爲ニハ叔父ソ
カシ。叔父ノ孝養ニ頼朝ヲ申助テ。家盛カ形見
ニ尼ニ見セ給ヘト宣ケレハ。申テコソ見メ
テ。清盛ノ御前ニ參。此由ヲ申サレケレハ。清盛
宣ケルハ。是コソ池殿ノ仰ナレハトテ承ルト
ハ申難ケレ。義朝朝敵トハ云ナカラ。源平ノ中
惡ケレハ。保元平治ノ合戦ニ清盛大將軍ヲ承
リ。源氏多ク失ヒシ事實也。中ニモ頼朝ハ父カ
イトヲシミノ子トシテ。官ヲモ右兵衛權佐ニ

テ進マセ。未代ノ大將ソトテ。物具モ殊ニ能ヲ
取セケルト承ル。兄弟多キ中ニ。今ニテ生タル
タニモ不思議也。助ケニ事ハ思ヒモ寄ス。疾々
斬ヘシト宣フ。重盛池殿ニ此由申サレケレハ。
涙ヲ流シ哀戀シキ昔哉。忠盛ノ時ナラハ是程
輕クハ思ハレシ。過去ニ頼朝ニ我命ヲ助ラレ
テ有ヤラニ。聞ヨリシテ痛ク不便ニ思フ也。頼
朝斬ラレハ我モ生テ何カセニ。サラハ干死ニ
セントテ湯水ヲモ見入ス。臥沉テ泣レケレハ。

重盛清盛ノ御前ニ參。池殿コソ頼朝斬ラレハ
 尼モ千死ニセニト御歎候ナルカ。既ニ限ト承
 候。老^{オロ}衰^{オロシ}オハシマシ候ヘハ。唯今モ空シク成給
 事候ハ、清盛ハ賢人ノ弓取トコソ聞ツルニ。
 老衰タル母ノ申事ヲ叶ヘス空シクナシヌル
 ハ。繼母繼子ノ中一テコソ。加様ニハアレナト
 人申候ハ、御爲ニハ憚^{ハカリ}ニテ候物ヲ。頼朝ヲ斬
 ラレ候トモ。無^{ナカ}ラニ果報來ルヘキニテモ候ハ
 ス。助給候共、アラニ果報失ヘキニテモ候ハス。

當家ノ運末ニナラン時ハ。諸國ニ源氏多ケレ
 ハ。世ヲ執^{トウ}ニ事何ノ疑^{ウタガハシ}カ候ヘキト申サレケレ
 ハ。清盛理^{ツギ}トヤ思ハレケン。十三日ニ斬ルヘカ
 リニ頼朝ヲ流罪ニ定置云々
 其時人申ケルハ大草香親王ノ^{仁德帝}御子眉輪
 王ハ^{京師鎌倉半井本。大草香親王ヲ作。奥}七歳ノ時
 父ノ敵繼父安康天皇ヲ害シ奉リ^{事見千保}栗屋
 河次郎負任カ子千代童子ハ十二歳^{按陸奥話記}
 圖^{並云。千代}童子十三歳^{今昔物語系}甲冑ヲ帶シテ父ト一所ニ討死ス。頼

三浦物語 卷三

四八

朝ハ既ニ十四歳ヅカニ。父討レヌト聞ハ自害ヲ
モセテ。尼ニ屬シテ甲斐ナキ命生ニト歎ナケラコソ無
下ナレト申セハ。又或人云イヤイヤ怖オホシ。義朝不
義ノ謀反ニ與クニシテ。運命ヲ失フ事ハ運當作身サル事
ナレトモ。熟事ノ心ヲ思フニ。保元ノ忠節拔群ナ
レトモ。恩賞是疎ニシテ。大形ノ清盛ニハ劣オホレリ。
依テ勲功薄ウラミキ事ヲ恨テ起オコス處ノ反逆ナレハ君
ノ御政ノ不正ヨリ起ル處ナレトモ。下トシテ上
ヲ凌シラクカ故ニ身ヲ滅ナシシ畢。然トイハトモ大忠ノ

餘薰ハ家ニ留レリ。是ヲ以テ氏族ノ中ニ。必門葉
ヲ榮ホヤカス輩有ヘキ也。頼朝雅オホナシトイハトモ。父
ガ子ナレハ加様ノ事ヲ心ニ籠コメテヤ命ヲ惜ムラ
ニ如何ナル名將勇士モ命有テノ事也。サハ越
王會誓ノ恥ヲ雪シモ。命ヲ全フセシ故也。頼朝モ
命全クハト思ヘハ。尼公ニモ附入道ニモ云。助カ
ルコソ肝要ナレトソ申ケル
常磐出ニ六波羅事京師杉原鎌倉半井
四本異別出ニ于段尾
サハ程ニ清盛ハ。義朝カ子共常磐カ腹ニ三人ア

リト聞テ。シカモ皆男子也。尋ヨト有シカハ。常磐
カ母ヲ召出シテ問レケル程ニ。左馬頭殿討レ給
ヒヌト聞ヘシ日ヨリ。子共引具シテ何地トモナ
ク迷出侍リヌ。争カ知侍ラント申ケレハ。何條其
母ヲ搦捕テ尋ヨトテ。六波羅へ召出し様々ニ誠
問レケリ。母泣々申ケルハ。我六十二餘ル身ノ命。
今日明日トモ知ヌ老ノ身ヲ惜テ。イマ夕遙ナル
孫共ノ命ヲハ。争カ失ヒ侍ヘキナレハ。知タリト
モ申マレ。増テ知ヌ行末何トカ申侍ント口説ケ

レハ。水火ノ責ニモ及フベカリシヲ。常磐宇多郡
ニテ此由傳聞。母ノ爲ニ憂目ニアハニハ如何セ
シ。我故母ノ苦ヲ見給フラニコソ悲シケレ。佛神
三寶モ左コソ悪シト思召ラメ。子共ハ僻事ノ子
ナレハ。終ニ失ハレコソセニスラメ。隠シモ果ヌ
子共故科ナキ母ノ命ヲ失ハニ事ノ悲シサヨト
思ヘハ。三人ノ子共引具シテ都へ上リ。本ノ任家
ニ行テ見レハ人モナシ。コハ如何ト尋レハ。アタ
リ人一人一日六波羅へ召シ給ヒシカ。イマ夕歸給

ハストソ答ケル。常磐先御所九條院へ參テ申ケルハ。女ノ身ノ墓分ナサハ。若モシ片時モ身ニ添ツテヤ見ルト。此稚キ者共引具シ。傍田カク舎イナカニ立忍テ侍リツルカワラハ故行衛モ知ヌ老タル母ノ。六波羅へ召レテ憂目ニ逢給フト承レハ。餘リニ悲シクテ。恥ハヲモ忘レテ參タリ。早々稚キ者ト諸共ニ。六波羅へ遣サセオハシテ。母ノ苦ヲ止テ給リ侍ヘト申セハ。女院ヲ始進ラセテ。有ト有人々。ヨノツ子ハ老タル母ヲハ失フトモ。後世ヲコソ弔ハメ。少

キ子共ヲハ如何殺サント思フヘキニ。子共ヲハ失フトモ。母ヲ助ケント思フラニ有難サヨ。佛神モ定テ憐思アヒミ召ラニ。年來此御所へ參ルトハ皆人知レリトテ。尋常ニ出立セテ。親子四人清ゲナル車ニテ。六波羅へソ遣サレケル。見馴ナシ宮ノ内モ。今日ヲ限ト思フニハ。涙モ更ニト、マラス。名ラノ三聞ニ六波羅へモ近附ハ。屠所ノ羊ノ歩トハ我身一ツニ知レタリ。常磐既ニ參コカハ。伊勢守景綱申次ニテ。女ノ心ノ墓ナサハ。暫シモ若モシヤ身ニ

添侍ルト稚キ者相具シテ片邊土へ忍テ侍ツル
カ。行衛モ知ヌ母ヲ召置セオハシニスト承テ御
尋ノ子共具ニテ參侍フ。母ヲハ疾ク助オハシマ
セトカキ口説ケレハ。聞人涙ヲソ流シケル。清盛
此由聞給ヒテ。先子共相具ニテ參タル條神妙也
トテ臆テ對面ニ給ヘハ。二人ノ子ハ左右ノ脇ニ
アリ。稚キヲハ抱ケリ。涙ヲ抑ヘテ申ケルハ。母ハ
元來科ナキ身ニテ侍ヘハ。御免ニ候ベシ。子共ノ
命ヲ助給ハントモ申候ハス。一樹ノ下ニ住同流

渡ルモ。此世一人ノ事ナラス。高キモ卑キモ。親ノ
子ヲ思フ習。皆左ヨソ侍ラヌ。ワラハ此子共ヲ失
ヒテハ。甲斐ナキ命片時モ堪テ在ヘキトモ覺侍
ハ子ハ。先ワラハヲ失ハセ給ヒテ後。子共ヲハ免
モ角モ御計ニ候ハハ。此世ノ御情。後世迄ノ御利
益是ニ過タル御事候ハシナカラヘテ夜晝歎悲
ニ事モ。罪深ク覺侍ルト口説ケレハ。六ツ子。母
ノ顔ヲ見上テ。ナカデ能申サセ給ヘトイヘハ。母
ハ彌涙ニソ咽ヒケル。サシモ心強ゲニオハシツ

ル清盛モ。頻ニ涙ノ進ケレハ。押拭^{オシヒ}押拭^{オシヒ}シテ。左ア
ラヌ體ニモテナシ給ヘハ。サハカリ猛^{タケ}キ兵共。皆
袖ヲソシホリケル。忍アヘヌ輩ハ多ク座席ヲ立
レケルトカヤ。常磐ハ今年二十三。梢^{コス}ノ花ハカツ
散^{チリ}テ少盛^{オホシ}ハ過^{スギ}タレトモ。中々見所アルニ異^トナフ
ス。元來眉^ミ目容^{メノカタ}人ニ勝^マレタルノミナラス。少キヨ
リ宮仕^{ミヤノシ}シテ物馴^{モノナレ}タル上。口^{クチ}キ、成^ナシカハ。理正^{リテイ}シ
ウ思^{オモ}フ心ヲ續^{ツク}ケタリ。緑^{キナ}ノ黛^{マユ}紅^{ベニ}ノ涙ニ亂^{マズ}テ。物思
フ日數^{ヒノトビ}經^{ケル}ニケレハ。其昔ニハアラ子共打^{ウチ}シホレ

タル様。猶ヨノツ子ニハ勝^マレタリケレハ。此事ナ
クテハ争^{イカサマ}カ懸ル美人ヲハ見ヘキト申セハ。或人
語ケルハ。能^{ヨキ}コソ實^{ケニ}モ理^{コト}ヨ。伊通大臣ノ中宮^{ミチノ}子^コノ
御方^{ミカタ}ヘ。人ノ眉目好^{ヨク}ラニヲ進ラセントテ。九重^{クニ}ニ
名ヲ得タル美人ヲ千人召レテ百人撰^{エラ}ヒ。百人カ
中ヨリ十人撰^{エラ}ヒ。十人カ中ノ一トテ此常磐ヲ進
ラセラレシカハ。唐楊貴妃漢李夫人モ。是ニハ過
レ物ヲトイヘハ。見レトモ見レトモ彌^{トモ}珍^{メタシ}カナル
モ理哉トソ申ケル。去程ニ母ハ免^{ユル}サレケルニ。此

古今物語 卷之三

孫共コトモヲ失ヒテ。明日ヲモ知ヌ老ノ身ノ。助リテモ
何カセニ。ウタテノ常磐ヤ。老ノ命ヲ助ニトテ。ア
ノ子共ヲハ何ニ具ニテ參ケニ。四人ノ子共ノ
事ヲ思ハニヨリ。只老ノ身ヲ先失ハセ給ヘトテ
泣悲ナキカシケルモ理也。足音アヒオトノアラ、カナルヲモ。今ヤ
失ハル、使ツカナルラニト膽イデヲケニ。聲高ニ物云フ
モ。ハヤ其事ヨト魂タマシヲ失ヒケルニ。大貳宣ケルハ。
義朝カ子共ノ事。清盛カ私ワタシノ計ヒニ非ス。君ノ仰
ヲ承テ執行ウチオウチウ計也。伺申ウカガヒテ朝儀ニコソ從ウカガヒハメト宣

ヘハ一門ノ人々并侍共。如何加様ニ御心弱ヨクキ仰
ニテ候ヤラン。此三四人成長候ハニハ只今ノ事
ナルヘニ。君達ノ御爲。末代懼オホレクコソ候ヘト申
セハ。清盛誰モ左コソ思ヘトモ。オトナレキ頼朝
ヲ池殿ノ仰ニテ助置上ハ。兄ヲハ助ケ稚キヲ誅
スヘキナラ子ハ。カナキ次第也ト宣ケリ。常磐ハ
母子共ノ命今日ニ延ルモ。偏ニ觀音ノ御計ヒト
思ケレハ。彌信心ヲ致レテ普門品ヲ讀奉リ。子共
ニハ名號ヲソ唱ヘサセ給ヒケル。角テ露ノ命モ

消^去ヤラテ。春^モ半暮^ルケルニ。兵衛佐殿ハ伊豆國へ
流サルト聞ヘシカハ。我子共ハ何クヘカ流^カサレ
ニト^モ膽^ヲケシ伏^シ沉ケルカ。稚ケレバトテ流罪ノ
議ニモ及ハサリケリ。

○京師本杉原本鎌倉本半井本並云。都ニハ六波
羅ノ使常磐カ宿所ニ來テ尋ケレハ。母知スト
答^{コソフ}。清盛爭^{イカフ}カ母ノ知サルヘキ。召捕テ問ヘシト
宣ヘハ。伊藤武者景綱承常磐カ母ヲ召捕テ問
ケレハ。去^レ九日、夜幼キ人々引具シテ。清水ヘト

テ参リシ後ハ。行衛ヲ知スト申セハ。何條其儀
アルヘキ。命ヲ限ニ問ヘトテ。散々ニソ問レケ
ル。大和ニテ常磐此由傳聞。命アラハ幼キ者ハ
又モ儲^{イカリ}テ見ヘシ。母ヲハ爭^{イカフ}カ儲^{イカリ}テ見ルヘキト
テ。幼キ人々引具シ六波羅へ出ケルカ。九條女
院一暇^{ヒマ}申ニ参タリ。女院御覽シテ。如何此程ハ
何方ニ在ツルソト仰ケレハ。子共ノ命ヲ助ニ
タメ。大和ナル所ニ忍テ侍ツレトモ。科^カモナキ
母ノ命ヲ失ハルヘシト承テ。助ケニタメニ六

波羅へ出侍フカ。暇申ニ參侍フト申セハ。女院
哀ニ思召。最期ノ出立自ラセニトテ。色々ノ御
衣ヲ常磐ニタヒ。三人ノ幼キ人トモノ装束マ
テ下サレケレハ。常磐歎ノ中ニモ斜ナラス悦
テ出ニトスレハ。御車サへ許サレ進ラセテ。我
身子共ニ取乘。景綱カ許へ行。母ノ尼上是ヲ見
テ我身老衰タリ。今幾程ノ命ナレハ。幼キ人々
和御前ノ命ニ代^カラントコソ思ヒツルニ。歸來
テ二度憂目ヲ見セニ事コソ悲レケレトソ歎

ケル。景綱清盛ニ此由申セハ。母ノ命ヲ助ニ爲
ニ參タルナ。モトヨリサコソ有ヘケレ。具レテ
參レト宣ヘハ。常磐ヲ具レテ參。母ノ尼公モツ
レテ參ル。聞ユル常磐コソ召出サレテ參タレ。
誰カ預リテ憂目ヲ見ニスラニ。イサヤ常磐カ
姿見ニトテ。平家一門侍共ニ至マテ。皆六波羅
ヘソ參ケル。清盛侍へ出給ヒ。常磐ニ對面シテ。
如何此間何方ニ在ケルソト宣ヘハ。常磐義朝
ノ幼キ人々ヲ取出サレ失ハルヘニト承リ。忍

テ候ツレトモ。科モナキ母ノ命ヲ失ハルヘシ
ト承助ニタメニ參候。幼キ者共ヲ失給ハ。先
ワラハヲ失給ヘトテ泣居タリ。母ノ尼ウレ口
ニテ。孫ト女ヲ失給ハ。尼ヲ先失給ヘト歎ケ
ル。今若殿敵清盛ノ方ヲ一目。母常磐カ方ヲ一
目見テ。泣テ物ヲ申給ヘハ是非モ聞ヘ候ハヌ
ニ。ナカデ申給ハテト宣ヘハ。平家ノ人々侍共。
義朝ノ子ナレハ。釋ケレトモ申事ノ怖レサヨ
トテ。舌ヲ振テ怖合。常磐ハ十六歳ヨリ義朝ニ

トリ置レテ七年杉原本ノ契ナレハ。云捨ル言
葉ニテモ頑ナル事一ツモナシ。常磐生年二十
三。九條女院ノ后立ノ御時。都ノ中ヨリ眉目ヨ
キ女ヲ千人揃テ。其中ヨリ百人。又百人カ中ヨ
リ十人勝リ。其中ニモ常磐ハ一トソ聞ヘケル。
清盛ハ常磐カ姿ヲ見給フヨリ。由ナキ心ソ移
ラレケル。清盛宣ケルハ。敕定ニテ候ヘハ大方
執行ニテコソ候ヘ。サレハトテ争カ情ナキ事
ハ有ヘキトテ。景綱カ許ヘ返サレケリ。其後常

磐ノ許へ御文ヲ遣サレケレトモ。御返事モ申
 サ子ハ。三人ノ幼キ者共助置へシ。從ハスハ目
 前ニテ失フヘシト宣ケレハ。常磐猶御返事ヲ
 モ申カス。母云ケルハ。幼キ人々尼カ命ヲ助ニ
 ト思ハ。仰ニ從フヘシト様々ニ云間。サスカ
 幼キ人々ノ命モ惜ク。母ノ命モ背カシト思へ
 ハ御返事申テ。敵ノ命ニソ從ヒケル
按_ス清盛贈_ル書_ヲ常磐_ニ以_テ
下_ニ至_テ此_一節_{。岡崎本_ニ載_ス此_下}
半若奥州_下向_段與_此同_シ 侍共申ケルハ。一人
 二人ニテモ候ハス。敵ノ子トモ三四人マテ助

給ハニ事。如何候へキト申ケレハ。清盛池禪尼
 ノサリ難ク宣へハ。頼朝ヲタニ助置ニ。ソレヨ
 リモ幼キ者共ヲ失ハニ事。不使ニ覺ユルノト
 宣ケル。云々

○按_ス盛衰記云。清盛使ヲ立テ常磐ヲ尋ケレハ。サ
 思ツル事也。中々逃隱テモ悪カリナントテ十
 歳ニミタサル子共三人搔持テ。泣々清盛ニ逢
 タリケリ。云々。而無_レ逃匿_之文。且章段甚_々畧_可并
 見

